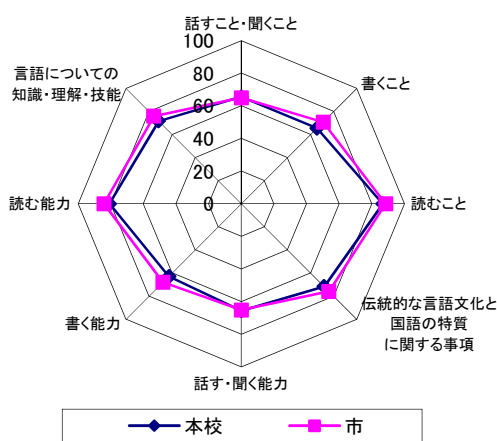


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.6	65.0	62.9
	書くこと	65.6	70.9	71.3
	読むこと	86.7	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	75.8	75.3
観点別				
	話す・聞く能力	65.6	65.0	62.9
	書く能力	62.8	68.0	68.0
	読む能力	80.7	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	71.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

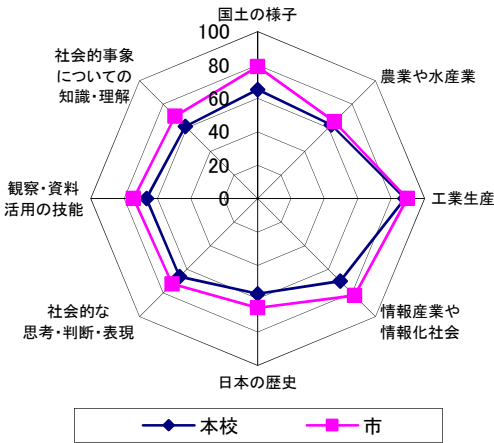
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率を0.9ポイント上回っている。 ○「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる」の校内正答率は全て市の正答率を上回っている。 ●記述式の問題では、正答率は30%と低く、市の正答率を3.2ポイント下回っている。	●ペア学習など、普段から話し合いの時間を設けている成果であると考えられる。しかし、記述式となると正答率が低くなっており、今後は自分の意見を記述させたり、話し合いの結果を記述させたりするなど授業の形態の工夫を図っていきたい。
書くこと	●市の平均正答率を5.3ポイント下回っている。 ○「指定された長さで文章を書くことができる。」の校内正答率は市の正答率を2.4ポイント上回っている。「自分の意見とその理由を区別して書くことができる。」校内正答率は、市の正答率を1.3ポイント上回っている。 ●「資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を理解することができる。」や「資料の内容を読み取って、文章に適切に書き表すことができる。」校内正答率は、市の正答率を下回っている。	●基本的な作文力は身につけていると考えられる。 ●週末に日記作文の宿題にとりませているが、字数の制限を設けることで、指定された長さで文章を書く力が身に付いたと考えられる。引き続き制限を設けた指導をしていきたい。 ●資料やグラフから読み取ったことを書くことに対しては、他の教科との関連を図り、資料を読み取る機会や読み取ったことを書く機会を多く設けていく。
読むこと	●市の平均正答率を1.7ポイント下回っている。 ○「文章の表現の工夫を読み取ることができる。」の校内正答率は、市の正答率を4.2ポイント上回っている。 ●「登場人物の心情を読み取ることができる。」や「文章の内容を的確に読み取ることができる。」の校内正答率は、市の正答率を下回っている。	●各設問での平均正答率は、市の平均正答率と大きく隔たるものではない。物語文に関しては心情表現等の語彙力を増やしたり、情景からどんな心情が読み取れるかなど児童間で交流したりするなどの学習をさせていきたい。 ●説明文では、接続語や指示語などに注目させ、段落の構成を押さえる学習をさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●市の平均正答率を4.1ポイント下回っている。 ○「配当漢字を読むことができる。」の平均正答率は75%を超えている。 ●「配当漢字を書くことができる。」の平均正答率は40%しかないものがある。	●既習漢字に関しては漢字練習に取り組みせたり、小テストを行ったりして理解の定着を図るようにする。 ●既習漢字は、短文作りを行うなど使いこなすことで語彙力の育成を図るようにする。 ●語彙力の育成として辞書の積極的な活用を行うようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	65.3	79.1	74.9
	農業や水産業	62.5	65.1	63.7
	工業生産	88.3	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	70.0	82.2	73.1
	日本の歴史	57.1	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.2	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	66.6	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	61.2	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

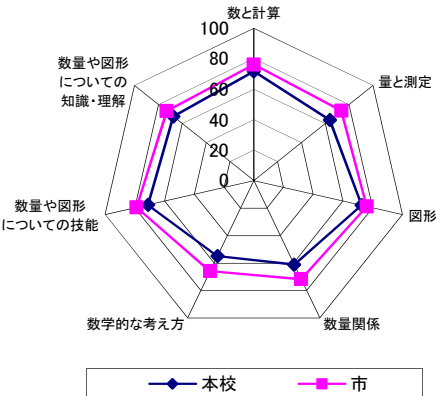
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●市の平均正答率を13.8ポイント下回っている。 ●「日本の国土について理解している。」の校内正答率は40%と低い。	●地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について継続的に取り扱うようにする。 ●歴史を学ぶ際には日本のどの位置にあるのかなどを確認し、地理的な要因についても同時に取り扱うようにする。
農業や水産業	●市の平均正答率を2.6ポイント下回っている。 ○「米作りの作業工程と作業を行う季節について理解している。」の校内正答率は市の正答率を超えている。 ●「国産と外国産の農産物の値段の違いは、耕地面積や生産方法によるものであることを、資料を読み取り考えて、表現することができる。」の校内正答率は36.7%と低い。	●稲作体験などを通して、作業工程や作業を行う季節について理解を深めていると言える。水産業についても生活に関連付けて考えることができるようデジタル教科書等の活用を図る。 ●生産者の立場だけでなく消費者の立場の視点も持てるよう、授業の形態の工夫を図るようにする。
工業生産	●市の平均正答率を1.4ポイント下回っている。 ○「工業製品の種類について理解している」の校内正答率は96.7%と高い。 ●「消費者の多様な需要にこたえ、優れた製品を生産するための工夫や努力について、資料を読み取り考えることができる。」の校内正答率は80%である。	●正答率は低いとは言えず基礎的な知識の定着が図れていると言える。知識の活用を図るため、資料やグラフを読みとり考えをまとめたり、資料を活用して新聞にまとめたりするなど思考を深める場を設ける。
情報産業や情報化社会	●市の平均正答率を12.2ポイント下回っている。 ●「マスメディアの種類について理解している。」「医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読みとり考えることができる。」の校内正答率は、市の平均正答率を下回っている。	●メディアの種類や身の回りのマスメディアについて、実生活に結びつけて考えることができるよう引き続き指導を行う。 ●メディアリテラシーの一環として資料から何が読み取れるのかを話し合わせることで、多様な見方や考え方があることに気付けるようにする。
日本の歴史	●市の平均正答率を8.3ポイント下回っている。 ○「条約改正について、資料を読み取り考えることができる。」の校内正答率は、市の正答率を2.6ポイント上回っている。 ●全般的に市の平均正答率を下回っている。	●教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も考えられるよう多面的に捉えられるような授業の展開を工夫する。 ●それぞれの理解が共有できるよう話し合いの場を多く設けたり、新聞にまとめたりすることで共有できるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.7	76.2	72.9
	量と測定	63.8	73.6	70.6
	図形	72.5	76.0	72.1
	数量関係	61.1	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	55.0	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	71.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	67.5	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

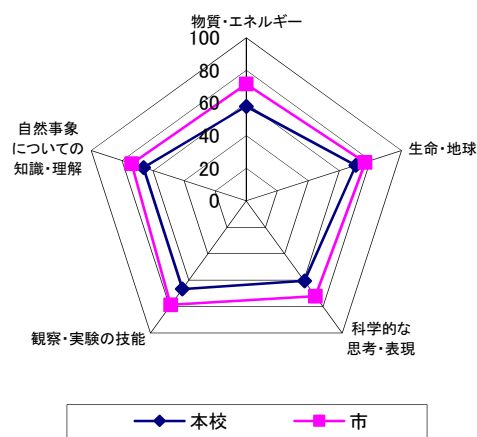
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。 ○「小数第1位×小数第1位の計算ができる。」「整数×分数（約分1回）の計算ができる。」「分数÷分数（約分あり）の計算ができる。」の校内平均正答率は90%を超えている。 ●「図を使って、少数の除法の文章問題に合った式を選ぶことができる。」の校内平均正答率は40%を下回っている。	●基本的な四則計算の計算力は定着していると言えるので、今後も継続して習熟を図っていく。 ●図を使って解法を求めたり、単位量当たりの大きさを求めたりする際には、式を立てるだけでなく、図や表を利用して考えを深める話し合いの場を多く設けるようにする。
量と測定	●市の平均正答率を9.8ポイント下回っている。 ○「直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。」「直径が与えられた円の面積を求める式を選ぶことができる。」の校内正答率は80%を超えている。 ●「教室の面積と児童の人数から、1㎡の人数を求める式を選ぶことができる。」の校内正答率は、23.3%と低い。	●面積や体積についての基礎的な知識は定着していると言える。継続的に復習を行い、確実なものしていく。 ●単位量当たりの大きさや速さにおいては、復習を行うことで知識の定着を図ったり、解く際に線分図を利用したりすることで、考え方や技能の向上をはかるようにする。
図形	●市の平均正答率を3.5ポイント下回っている。 ○「3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる。」の校内正答率は、85%を超えている。 ●「平行四辺形について、線対称か点対称かを正しく説明した文を選ぶことができる。」の校内正答率は、市の正答率より16.2ポイント低い。	●多角形の角度や合同な三角形の作図、線対称や点対称な図形の理解など基礎的な理解は定着していると言える。引き続き復習を交えて理解の定着を図っていく。 ●説明をする文章を選んだり、文字式を読み取ったりすることについては理解を深めるため、解放を共有する話し合いの場を多く設けたり、式を言葉で説明する機会を多く設けるようにする。
数量関係	●市の平均正答率を10.7ポイント下回っている。 ○「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字値を求めることができる。」や「比例の関係を、xとyを使って式に表すことができる。」の校内正答率は、80%を超えている。 ●「調べた分量と作りたい分量の割合（比）を読みとり、足りない材料の量を求めることができる。」の校内正答率が低い。	●文字を使って式を立てたり、一方の値から他方の値を求める問題の理解は定着が図れていると考えられる。 ●グラフから数量関係を読み取ったり、比を利用して分量を求めたりする際には見るべきポイントを話し合わせたり、図や表に分かりやすくまとめることを通して、考え方を共有できるような授業の展開を行うようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.0	71.6	67.4
	生命・地球	70.5	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	60.6	72.1	68.8
	観察・実験の技能	66.7	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	66.2	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を13.6ポイント下回っている。 ○「石灰水を白くにごらせる気体が二酸化炭素であることを理解している。」「木を缶の中で効率よく燃やす方法を指摘できる。」の校内正答率は、85%を超えている。 ●「ふれはばを変えても振り子の周期は変わらないことがわかる。」「食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を理解している。」の校内正答率が低い。	・実験では、子ども達の予想を大切にしながら実験を行い、実験結果からの考察を児童の言葉からまとめるなど、思考を大切にしたい指導の工夫を図っていく。 ・知識の定着が図れるよう関連する単元で意図的に振り返りを行ったり、前に学習した内容を関連付けるなどの指導を行っていく。
生命・地球	・市の平均正答率を6.1ポイント下回っている。 ○「血液を全身に送り出すきかんの位置と名称がわかる。」「植物の体内を水がどのように通るか、実験によってたしかめることができる。」「植物がとり入れた水のゆくえを、実験によって確かめることができる。」の校内正答率は、85%を超えている。 ●「だ液のはたらきを調べる実験」の理解が低い。	・設問によって正答率にばらつきが見られ、知識の定着が十分ではないものがある。実際に実験した内容も理解が不十分なものが見られるので、単元の初めに復習を行ったり、理解の確認を行ってから学習することで、定着を図れるようにしていく。 ・実験よりも観察することが多くあるので、普段の生活で関連した話題を提示するなどして、知識の定着を図れるようにする。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、それを文章にまとめて書いたり、発表したりする指導の充実	○学年に応じたノート指導を行い、自分の考えをノートに残せるようにする。 ○文字数の制限を設けて、目的やテーマを明確にした書く活動を取り入れる。 ○友達の考えや意見を参考にしながら話す内容を考えられるように、友達と	・「話すこと・聞くこと」では正答率が高い。ペア学習など、普段から話し合いの時間を設けている成果であると考えられる。 ・基本的な作文力は身につけていると考えられる。
学習内容の定着と習熟に向けての指導の充実	○授業の中で、学習内容の理解状況を確認する場を設けたり、類似問題に取り組み習熟を図ったりする時間を位置付けていく。 ○具体物を実際に操作する活動を位置付けていき、学んでいることを実感させる。	・基本的な四則計算等の計算力はおおむね定着していると言えるが、二極化している。 ・面積や体積についての基礎的な知識は定着していると言える。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「書くことやまとめることを習慣化していけるようにすること」や「図や表を利用することで様々な表現方法を経験させたり、語彙力を高めていくことで表現の楽しさを感じられるようにすること」などを意図した活動を取り入れる。伝えることの苦手意識が軽減できるようにする。
- ・既習事項の確認を行うことで学習したことの習熟を図ったり、学習する内容との関連を図ることで、学習内容の定着が図れるようにする。